

# 未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業

平成30年度予算額 **40.3億円（43.8億円）**

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 文部科学省、厚生労働省と連携し、日本が強みを持つロボット技術や診断技術等を活用した世界最先端の革新的な医療機器・システムの開発・実用化や、開発の指針となる手引き（ガイドライン）の策定を、日本医療研究開発機構を通じて推進します。
- 具体的には、主に重点分野（手術支援ロボット、人工組織・臓器、低侵襲治療、画像診断、在宅医療）を対象として、研究者と企業の共同事業体による革新的な医療機器・システムの開発・実用化を行います。
- さらに、平成30年度から、革新的な医療機器・システムの開発を牽引していく人材を対象に医療機器の試作品開発・評価の支援を行います。
- また、高齢化の進展、医療現場の負担増等、中長期の社会構造の変化を踏まえ、将来の医療機器・システムの開発に係る課題を発掘するための実現可能性調査を行います。

### 成果目標

- 平成32年度までに、5種類以上の革新的医療機器・システムの実用化を目指します。

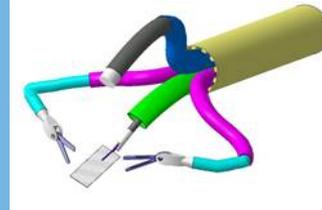
### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



## 事業イメージ

### 手術支援ロボット・システム

#### フレキシブル内視鏡手術装置



深部の病変を低侵襲で治療

#### スマート治療室



機器を一元的に管理し、医師の意思決定を支援

### 人工組織・臓器

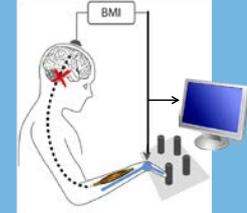
#### 機能的生体組織製造技術



細胞を用いて血管・組織を立体造形

### 低侵襲治療

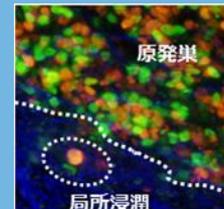
#### ニューロリハビリシステム



脳波を検出して麻痺の回復を支援

### 画像診断（イメージング）

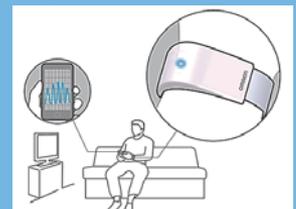
#### 低侵襲がん診断装置



組織を切り取らずに、がん細胞を検出

### 在宅医療機器

#### ウェアラブル血圧計



血圧を連続測定し脳・心疾患を予防